

部活動の今に迫る!!

本広報誌は早くも今回が10回目。これまでも多くの在校生にご登場いただきましたが、今回は部活動に焦点を当て、コーラス部、テニス部、ESS部の今に迫ります。

コーラス部

- 部員数：71人（とうとう学内最大級の部活に…!!）
- 顧問の先生紹介：奥村暁先生、尾野佑一郎先生、吉田智也先生、篠原泰子先生
- 活動内容：コンクールの全国大会を目標に、日々全力で自分たちの声と向き合っています。体操や発声などの基礎練習をベースに、パート練習や合わせなどでみんなで音楽を作っています！合宿や演奏会など、様々なイベントも行っています♪



今年度は、Nコンでコーラス部史上初の学生指揮に挑戦したり、朝日に混声でB部門で出場したりと、様々な新しい試みを行ってきました。

何百時間という月日を費やした曲を披露するのは本番のたった10分。その儚さがコーラスの怖いところでありやみつきになる最高の魅力です。これだからコーラスはやめられない！

- 最後に：大会目前で部員や先生方の熱量も最大！！
まだまだ私たちの夏は終わらせない！！

～主な大会成績～

2022年度全日本合唱コンクール 中学校の部

全国大会出場

第90回NHK全国学校音楽コンクール兵庫県大会 中学校の部

金賞

2023年度兵庫県合唱コンクール

中高ともに金賞

テニス部

皆さんこんにちは、テニス部顧問の竹村（理科）といます。去年からテニス部の皆さんと一緒に活動させていただいています。実は私も本校の出身で（前身の神戸大学附属住吉小学校・中学校58回生）、3年前母校に帰ってきたとき、体育館がなくなった代わりに立派なテニスコートができていて、とても驚きました。そのコートで、私たちテニス部は、生徒が主体となって、先輩・後輩の垣根を越え、互いに切磋琢磨しつつ、日々活動しています。部員同士が一体となって練習や試合に





励む姿を見ていると、いつも心が温かくなります。特に今年は、前期男子テニス部が全国大会団体戦への出場を果たすという大きな成果を挙げることができました。これまでの練習の成果が実を結ぶ瞬間であり、部員たちの喜びもひとしおでした。強豪のシード校との試合でも、決して最後まで諦めることなく、果敢に戦い抜いた姿は感動的でした。このような素晴らしい結果を収めることができたのも、日頃より熱心に応援し、支えてくださる保護者の皆様、そして卒業生の皆様のおかげと心より感謝しております。貴重な

経験やアドバイスを頂きながら、部員たちは更なる高みを目指しています。今後も私たちテニス部は、部員一人一人が主体性を持ちつつ、団結してさらなる飛躍を目指します。これからも温かいご支援、ご声援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

～主な大会成績～

ユニクロ全日本ジュニアテニス選手権 2023

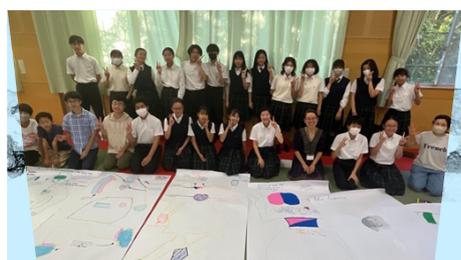
U16 シングルス出場 (釜坂勇輝) / U14 ダブルスベスト 16 (大江南都)

令和5年度近畿高等学校テニス大会 シングルスベスト 16 (釜坂勇輝)

令和5年度近畿中学校テニス大会 第3位

ESS部

こんにちは！ESS部です。現在1年生から5年生までの前後期合わせて36名で活動をしています。ESS部は1回生の先輩の頃からミュージカルを中心に活動していましたが、2018年にディベートセッションができました。現在、即興型と準備型の英語ディベートの練習を中心に活動しています。英語ディベ



トとは論題について肯定側と否定側に分かれて議論する競技です。たくさんの卒業生の先輩方からの指導も受け、本校ESS部の伝統を受け継ぎながら活動しています。世界交流大会に出場し、国際交流をしたり、ボディマップを使った英詩ワークショップなど、楽しい活動も行っています。様々な大会に出場し、沢山の賞を取っており、全国大会での優勝を目指して日々頑張っています！是非応援よろしくお願いします！

～主な大会記録～

- 第12回日本高校生パラメンタリーディベート連盟新緑杯 第3位
- 第12回日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯 第5位 ほか
- PDA全国中学校・高校即興型英語ディベート合宿・大会 中学生の部 優勝 ほか
- 第6回PDA中学生即興型英語ディベート全国大会 第3位
- 第17回全国高校生英語ディベート大会"Online" 優秀コンストラクティブスピーカー賞
優秀ディフェンススピーカー賞
- 第13回全国中学生英語ディベート大会 第3位

中等生の活躍!!

(一部抜粋)
2023年9月 ver.

■ KP

イノベーションユース 2040 Final Round
日本霊長類学会第39回大会 中学・高校生発表
令和5年度SSH生徒研究発表会
日本鳥学会2023年度大会 高校生ポスター

優秀賞 ほか
最優秀発表賞
生徒投票賞
最優秀賞

■ ASTA

第43回全国高校生クイズ選手権
数学・理科甲子園2023

決勝大会出場
第4位

■ 数学科

ILSP 国際統計グラフコンペティション

国内予選入賞

■ 音楽科

第41回兵庫県高等学校独唱独奏コンクール声楽部門

銀賞

■ 陸上競技部

兵庫県中学校新人陸上競技大会 2年男子 3000m

第3位

■ 水泳

第46回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技 **大会出場** (11歳~12歳区分)

学校NEWS短信

全国高校生クイズ 決勝大会に出場

10回生の富田さんと12回生の渡邊さんが、全国高校生クイズの決勝大会に出場しました。決勝大会進出は、参加している全1860チームの中で16枠しかない狭き門であり、本校にとっても初の快挙となりました。決勝大会では惜しくも準決勝に進めなかったものの、その雄姿はテレビ放送で全国に届けられました。

中等2回生の同窓会が開催される

成人式ぶりとなる2回生の同窓会が8月に開催

され、計66名の卒業生が一堂に会しました。小学校や前期課程のみ在籍していた卒業生も参加したため、附属の輪がこれまで以上に拡がり、とても心温まる会となったようです。



■ 卒業生だより

松浦 泰葉さん [中等1回生]

卒業生・在校生の皆さま、お久しぶりです、また初めまして。1回生の松浦泰葉です。気づけば卒業して9年目が過ぎようとしています、早いものですね。中等での生活を振り返ると、日々勉強に習い事に学校行事にと忙しくも充実した日々を送っていたように思います。生徒会に所属し、新しい学校創りに関わったことも良い経験になりました。執筆のお声がけをいただいてからこの陽菊のバックナンバーを改めて読み返し、卒業生も在校生も皆さま各々いろんな場所でご活躍されており素晴らしいなと感じました。

さて私事にはなりますが、中等を卒業後は神戸大学医学部へ進学し、現在は公立八鹿病院という兵庫県の田舎の病院で内科・総合診療科の医師として勤務しております。八鹿病院のある養父市は兵庫県の但馬地域に属し、鳥取県との県境に氷ノ山という兵庫最高峰の山があり冬はスキー客で賑わう自然豊かなところですが、しかし高齢化は深刻であり高齢化率は39.5%（兵庫県28.3%）で人口減少も進んでいます。人口構成でいうと日本の最先端であり、医療においてある意味最先端の医療を提供していると言っても過言ではないかもしれません（笑）。私の担当している入院患者さんの平均年齢も約85歳で超高齢の方が多いです。医療の世界は日々進歩していて様々な病気が治るようになっていますが、必ずしも治療をすること、救命をすることが患者さんやご家族にとって幸せかというところでもない場合もあると思っています。もう寿命と言ってもおかしくない年齢、認知症があってほぼ寝たきりで自分の意思を伝えたり自分で動いたりできないような方にどこまでの治療をするのか。人工呼吸器を付けば命は助かるかもしれませんがそこまで希望しているのか。口から食事が摂れない場合に、胃瘻を作ってまで栄養を入れるのか。そしてどこでどのように最期を迎えたいか。最近はこのようなことを考えることが多いです。患者さんがこれまでどのように生きてきたかやご家族がどう関わってきたかを聞きながら、今後どうしたいか、医療者側の考えとしてなにが最善と思うか、答えのない問題について話し合いながら方針を決めていきます。患者さんやご家族が最期を受け入れられる時間を作るのも我々の役割であるとも思っています。少し重たい話になってしまい申し訳ありません、皆さんの想像する医療とは少し違うかもしれませんが、こんな医療の現場もありますし今後はこのような場面が増えるのではないかと考えています（もちろん元気に回復して退院される方もたくさんおられますよ！）。私はそんな患者さんやご家族に寄り添い納得した最期、幸せな最期を迎えられる医療ができればと思いながら日々励んでおります。まだまだ未熟者ですが、先輩の医師や看護師さんなど他の医療職の方々に支えられながらなんとか元気にやっています。

中等を卒業後医学の道へ進まれる方も私の在学時より増えており、嬉しく思います。また1回生の同窓会も企画されており、私も参加予定です。皆さまにお会いできること楽しみにしています。



Yasuha Matsuura
在校時は生徒会に所属しながら、高校生クイズに出場するなど多岐に活躍。医者になり3年目。

お問い合わせフォーム

■ 同窓会の活動に関して



<https://forms.gle/JyN9kAfL5IEN4boi7>

■ 広報誌に関して



<https://forms.gle/PRyVcpmkeqy4ALDy5>

寄付のお願い 母校の教育活動の支援のため、寄付へのご協力よろしく申し上げます。



附属学校部 HP : <http://www.schools.kobe-u.ac.jp/donations.html>

伊藤 弘道さん [中等6回生]

皆様はじめまして。6回生の伊藤弘道です。撫子咲き誇る季節、皆さまいかがお過ごしでしょうか。縁あってこちらに寄稿させていただくことになりました。今回は私の所属している東京藝術大学について少しお話ししたいと思います。

東京藝術大学は美術と音楽の芸術 2 ジャンルを学ぶ大学です。私はその中でも美術学部芸術学科に所属しています。この学科は絵画科やデザイン科、建築科などとは異なり何を行う学科なのかがわかりにくいと思います。私も未だに説明を迷いますが、美学と美術史を主に取り扱っている学科です。芸術学科の他の学科と大きく違う点は卒業課題で作品制作を求められないところです。作品を実際に創造する立場ではなく情報の収集や整理、共有を是として活動を行う学科という事です。クリエイターというよりはキュレーターやレビュアーとして芸術に関わる事に悩むこともあります。身近に作家がいたり実技の授業を受講したりと作品への解像度をより高められる環境に身を置けることには感謝しています。

丁度この文を書いている頃は年に一度の学祭（通称藝祭）が終わった時期でもありました。ライブや模擬店など学祭らしいものもありますが、演奏会や作品展示に加えて蚤の市や御輿渡御など藝大ならではのものが多くあります。目玉となる御輿は全学科の1年生が4つのチームに分かれて制作します。美術学部側が発想・造形したものに音楽学部側で作曲・演奏をつけてパフォーマンスを行う様子からは藝大らしさを大いに感じられると思います。

今年、私は展示課長として藝祭運営並びに作品展示の総括・運営に関わりました。半年ほど前から準備を行い、藝大生の成果となる作品を展示できるよう取り計らうことが主な業務です。各専攻から出展されるもの、専攻を超えてグループで制作するもの、絵画や彫刻、インスタレーションなど様々な作品を管理することが難しく、そしてやりがいのある仕事でした。開催期間中は予想を遥かに超える観客に会場いただき、無事に終了を迎えることができました。トラブルも多かったですが、附属で培った柔軟性や思考力を十分に発揮できた藝祭だったと思い返しています。

東京藝術大学では、この藝祭に加えて一月末から数日間、卒業・終了作品展が開催されます。（音楽学部では卒業演奏会が12月頃から行われます。）この展覧会では、美術学部所属の学部生と院生が集大成として制作した、1日では回り切れないほどの多くの作品が展示されます。社会に向けて挑戦する凄みを感じさせるものばかりで、藝祭のフレッシュな作品群とはまた違った味わいがあります。この時期に東京に滞在する方は是非卒展も訪れてみてください！

最後になりましたが、卒業生の皆様の今後のご多幸をお祈り申し上げます。皆様の生活に芸術が豊かな彩りを添えることを願っています。



Hiromichi Itoh

中等6回生。現在は東京藝術大学芸術学科に在籍し、奈良の古美術と北方ルネサンスのゴシック建築を勉強中。



『lunar autumn』

泉 美穂先生

こんにちは。泉です。卒業生の皆さん、お元気でお過ごしでしょうか。私が附属に着任したのは2回生が4年生のときでした。2回生はとてもユニークな学年でした。おしゃべりが弾む給食、集会室での学年合唱、初めての兔原祭や英国修学旅行。オリジナル制作した卒業サブアルバム。附属住吉中の精神を受け継ぐ体育祭の応援演技の熱心な練習。エネルギーあふれる5回生は、p4cの議論好きでした。黒板前で毎日楽しそうに数学の問題を解きあう面々。英語の授業のプレゼン。オーストラリア修学旅行や多岐にわたったSGHプログラム。その他の回生とも授業やGAPやFIT、ESS部のミュージカルなど、皆さんが卒業して何年経っても一つ一つの思い出が鮮明に思い出されます。

私の近況としては、英語ディベート関連の活動が増えてきたことが挙げられます。業務分担をきっかけに、2018年度から学校のプログラムに加えて、ESS部でディベートに取り組むことになりました。その頃の私は、現在のようにディベートに取り組む生徒の育成に深く関わり、授業や研究で取り組むことになるとは想像もしていませんでした。学習指導要領が改訂され、英語の授業で発信力や思考力を高めるため、ディベート的活動が求められることになったこともあり、今では普及活動にも携わらせていただいています。

春学期の終業式では、FITプログラムとESS部で、前後期の延べ50名が表彰されました。多くの生徒が笑顔で賞状を受け取る姿は、現在の中等生の努力はもちろんのこと、右も左もわからなかった私と一緒に開拓してくださった世代の努力があったからこそだと感じています。ありがたいことに、いまでは全国に交流校ができて、5回生～9回生の卒業生の方々が後輩育成に関わってくださっています。

卒業生の皆さんには、11回生の進路講話も毎年お願いしています。憧れの先輩が生き生きと語る姿は、多くの生徒にとって進路選択のきっかけとなっています。京都遠足では11回生50名が京都大学を、東京キャンパスツアーでは1年生～5年生80名もが東京大学を訪れました。1回生～9回生の卒業生の方々が大学を案内し、大学生活や研究内容についてお話ししてくださいました。1回生の卒業生の方が「僕たちの頃は大学から先の将来がブラックボックスだったので、お役に立てることはなんでもしますよ。」とおっしゃってくださいました。そのおかげでいまの生徒にとっては卒業後の進路は「ブラックボックス」ではなく、先輩たちが進んでいる先が見えるものとなったのを強く感じます。

中等時代に私と縁があった方もなかった方も、皆さんのいまが中等生の何かのきっかけとなることもあるかもしれません。活躍している、いないなんて関係ありません。ふと思い出したらぜひ連絡をいただけたら嬉しいです。またはぜひ学校にいらしてください。

【編集後記】

2003年：阪神タイガースがセリーグ制覇…>9月15日、2013年：第1回文化祭が開催される…>9月15日、2023年：阪神タイガースがセリーグ制覇…>9月14日…。そう上手くはいきませんが、10年が経つとその間に色々なことが起こるものです。本広報誌も今回が第10号。次の10号もお楽しみに～♪

(次号は12月31日発行予定です。)



Miho Izumi

2013年に着任し、今年度で11年目。現在は5年生の担任。(写真は2回生の卒業サブアルバムから抜粋)